



水面に波は見え、対岸の景色がきれいに映っていました。明日から今期最強の冬型になると聞きましたが、今日は穏やかで暖かい日でした。歩いたのは水資源の横の駐車場から左回りに約2.5 km ほどを往復し、左の写真はその折り返し点の少し手前で写したものです。池にはカヌムリカイツブリの大群がいました。

いろいろな落葉樹の冬芽

道沿いに生えている落葉樹の内、目を近づければ肉眼でも分かるものを選びました。

＜冬芽は、^{ようこん}葉痕とセットで見られます＞

^{ようこん}葉痕について・・・樹木は葉を落とす前から樹液が外に漏れないように壁（離層）を作り始めます。水や養分の通り道がふさがれると葉を切り離します。その切り口（^{ようこん}葉痕）は葉柄の断面の形を表しており、その断面には目や鼻のように見えるものがあります。目や鼻に当たるところが水や養分の通り道（^{い かんそくこん}維管束痕）だったのです。この葉痕や維管束痕は樹種によって違います。

冬芽について・・・冬芽は夏から作られ、葉の付け根付近にあることが多いです。下の例では葉痕の上にあります。

ソメイヨシノ

冬芽に毛が生えているのがヤマザクラとの大きな違い。



イソノキ

駐車場北のソメイヨシノから少し離れたところにある。



クサギ

サクラ並木の間に1本ほどの細い木がたくさん生えている。





オニグルミ

上が冬芽、下が葉痕です。葉の落ちた後が羊の顔のように見えます。目と鼻の位置に維管束痕がありました。冬芽は顔の上にあります。



コナラの木を見上げたらゴツゴツとしたものがついていました。コナラの枝で時々見られる「がんしゅ病」だと思われます。



ジョウビタキのメス

毎年シベリアと日本を来している渡り鳥で、カッカとかヒッヒと鳴きます。 オス→



ムネアカハラビロカマキリの卵・・・2種類ありました

ハラビロカマキリは樹上性のカマキリで、名前のとおり腹が太く見えます。「ムネアカ」は2000年頃、中国から侵入した大型のハラビロカマキリで、愛知池では2015年頃から見られるようになりました。それにつれて在来種のハラビロカマキリは減っていき、現在はほとんど見られなくなっています。「ムネアカ」が短期間で広がったのは在来種に比べ大きめで気も強いからでしょう。

・2種類のムネアカハラビロカマキリの卵のう・・・左のように枝に対して角度をつけ、

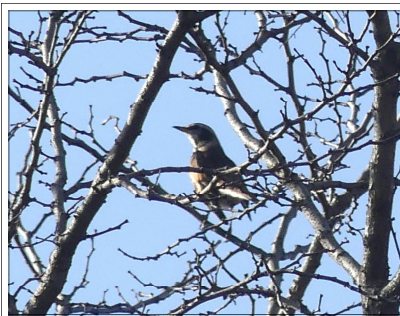


表面が白くなっているのが普通です。右のは枝に対して角度を付けて産んでいますが白くなっていません。色は在来種に似ています。在来種と「ムネアカ」のハイブリッドではないかと思われます。



ジョウグモの卵のう

2〜3センチくらいで、白い糸の中には赤く丸い卵が詰まっています。毎年桜の樹皮でよく見つかるのですが今年はかなり少ないです。



ツグミ

12月ころから見られるようになった冬鳥です。今は木の上にはいますが、来月の半ば頃には地面に降り、渡りに備え虫などをさがすようになります。



メジロ

雑木林のあちらこちらから「キョルキョル」とか「チーチー」というメジロの声が聞こえてきました。シジュウカラやコゲラ、エナガなどといっしょに行動することが多い小鳥です。